



すえちゃん

# しりょうかんだより



どうたくん

No.13

ひと昔前から「とよた」を発見する<sup>きち</sup>基地ができました。



平成17年11月1日(火)、「豊田市近代の産業とくらし発見館」(通称「発見館」)が、豊田市駅から東へ歩いて約5分の市街地に開館しました。長い名称ですが、明治から昭和初期を中心とした時代(今から50~120年くらい前)の「近代」のうち、豊田市域で行われていた「産業」に関する事柄と、市街地の変遷や町屋の「くらし」に関する事を取り扱い、それらの展示・紹介を通して何かを「発見」してもらうという、この施設の特徴をそのまま示しています。

発見館は、現存する建物としては市内最古級(大正10年(1921)建設)の鉄筋コンクリート造りの建物を利用しています。この建物は、自動車産業以前にこの地域が養蚕<sup>ようさん</sup>で栄えていたことを示す貴重な遺産<sup>いざん</sup>でもあります。その気になって探してみると、豊田市域にはこのような近代の遺産がたくさんあります。そして、その遺産を調べることによって、今まで見過ごしてきた地域の特色を見つけることもできます。ひと昔前を楽しみながら地域の特色を発見しに、ぜひ発見館へ来てください。

豊田市近代の産業とくらし発見館  
所在地：豊田市喜多町4丁目45番地  
TEL(0565)33-0301 / FAX(0565)33 - 0319  
開館時間：9:00 ~ 17:00  
休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館)・年末年始



## とよたのれきし(近世4)

### 「三河代官・鳥山牛助<sup>とりやまうしのすけ</sup>ところも」



木造鳥山牛助座像(市指定文化財)

江戸時代、拳母地区を中心とする村々を幕府が直接治める領地<sup>りょうち</sup>だった時代があります。寛文4年(1664)~天和元年(1681)の18年間です。この時の幕府の三河代官が鳥山牛助精明とその子・鳥山牛助精元〔寛文6年(1666)12月から代官〕でした。この親子二代の代官は、ころもの町の発展に多くの業績を残しました。町に幅三間半(約6.3メートル)の道をつくり、道沿いに町並みを整備。堤防に桑の木を植えて、蚕を飼うことを奨励。水害にあった勝手神社のため、移転の土地を無税としました。建物で耕作地が日陰になっていた毘森神社の移転を許可。洪水の多い矢作川の堤防を直角に曲げて造り、増水時に川の水を溜めて町への流入を防ぐように整備。(この堤防は「曲尺手堤」「精元堤」と呼ばれている)。上庄司池・下庄司池の治水工事をし、衣村、根川六ヶ村(金谷・下市場・下林・長興寺・今・山室)の田畑に水が行くようにしました。

写真の座像は代官を慕う農民がお寺(浄久寺)に納めたものです。また、金谷町では代官の肖像画を守り伝え、毎年掲げています。このような資料は人々に慕われた代官の業績を現在に伝えています。

きせつのはなし —彼岸—

彼岸ってなに？

春分の日と秋分の日を中心とした前後3日を含む7日間を彼岸といいます。この時期、お寺では法要が行われ、家庭では僧侶を呼んで仏壇の前でお経を上げてもらい、先祖の墓参りをします。こうした行事は、仏教の考えから来ています。

彼岸とは仏教の言葉で、私たちが生きているこの世を此岸というのに対して、死者のいる世界のことをいいます。この彼岸の世界は、悩みや苦しみの無い世界、阿弥陀(仏)のいる世界と考えられています。春分・秋分は、昼と夜の長さが同じになる日で、太陽が真東からのぼり真西にすすみます。そのため春分・秋分に太陽を夕方におがむと真西に向くことになり、阿弥陀にむかっておがむことになります。このようなことから極楽浄土を願い彼岸の7日間には、お寺でも彼岸の行事が多く、家庭でも先祖の供養をします。

また彼岸には仏壇やお墓にぼた餅・オハギをそなえます。ぼた餅とオハギ



は同じもので、もち米とうるち米を混ぜてたいて、軽くついて丸め、まわりに小豆や黄な粉をつけたものです。春には、ぼたんの花にちなんでぼた餅、秋には萩の花にちなんでオハギと呼びます。(地方によっては、小豆の餅をぼた餅、黄な粉の餅をオハギと呼ぶところもあるそうです。)

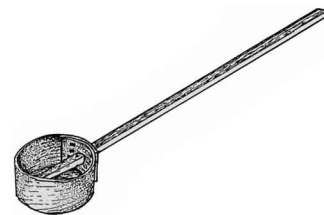
民具 MINGU

柄杓

柄杓は、水や湯などをくむ道具です。今では竹や金属で作られたものが多いですが、もともとはヒノキ・杉の薄い板を曲げて作られていました。現在でも神社に参拝する前に手を洗う時には、曲げ物の柄杓を使っています。

柄杓は古くはヒサゴといいました。ヒサゴはヒョウタンの事で、ヒョウタンを二つ割りにして使っていたところからこう呼ばれました。

柄杓は、願いをくみ取ってもらうように神社や寺に奉納したり、伊勢参りや霊場巡りに行く時を持ち歩いたり、聖なる器、霊の器として古くから尊ばれました。



柄杓

しりょうかんだより No.13

平成18年2月27日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471 0079 豊田市陣中町1 21

でんわ 0565 32 6561

URL <http://www.toyota-rekihaku.com>

E-mail [rekihaku@city.toyota.aichi.jp](mailto:rekihaku@city.toyota.aichi.jp)

郷土資料館では、みなさんが住む豊田市の歴史を紹介したり、大事な資料を集めたり、遺跡の発掘調査などを行っています。